

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人しまね文化振興財団	
施 設 名	島根県芸術文化センター 島根県立いわみ芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	10,199	(千円)
	公 演 事 業	1,343 (千円)
	人 材 養 成 事 業	4,872 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,984 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	MUSEUM×THEATER ミュージア	①5月8日、②9月23日、③11月26日	[出演者]①吉川真澄(ソプラノ)ほか、②歌島昌智(ピアノ)ほか、③佐々木望(声優)ほか	目標値	120
		多目的ギャラリー他		実績値	121
2	しまね伝統芸能祭2022 ～高校生 神楽フェスティバル～	8月7日	[出演神楽団体]益田東高校(益田市)、邇摩高校(大田市)他 ※出演取りやめ2団体	目標値	350
		江津市総合市民センター		実績値	600

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	イワミ・アート・ラボラトリー ～アートとつくるひとまちみらい～	7月30日、10月22日、1月21日他	[講師]今福座(和太鼓)坪内健(松ヶ丘病院)、志人(詩人) ※参加者の公募中止	目標値	100
		名賀体育館、光明寺、SHIKINOKASYHA		実績値	70
2	いわみキッズ塾(次世代人材育成事業)	①(合唱)2月4・5日※、②(邦楽)9月24～10月22日、③(ダンス)10月1・2日、8・9日	[講師・出演者]①熊谷美智子(合唱指導)※中止、②熊谷雅楽映(箏)他、③藤田善宏(ダンサー・振付家)	目標値	440
		江津市総合市民センター他		実績値	82
3	いわみ舞台塾	①(人材育成)4月29日～5月1日他、②(アートマネジメント)4月16日、③(舞台)3月13日	[講師]①坂井陽介(演劇)、大口俊輔(音楽)他、②中村蓉(ダンス)、③嶽本由郎(劇団四季舞台監督)他	目標値	220
		スタジオ1他		実績値	143
4	グラントワ・フランチャイズ芸術団体育成事業※	5月4日、12月24日他※複数回中止 スタジオ1、島根県民会館他	[講師]邦楽:熊谷雅楽映、弦楽:加藤幹雄、合唱:山崎勝、地元音楽スタッフ(学校教諭等)	目標値	1,560
			実績値		
5	鑑賞者育成講座 グラントワアートサロン	1月28日、2月18日 多目的ギャラリー	[講師]「落語入門講座」:桂吉坊、「チェロはいかが?」:染谷春菜(チェロ)、戸梶美穂(ピアノ)	目標値	75
				実績値	61
6	益田糸操り人形後継者総合養成事業	7月23日、11月4日他	[講師] 竹本 越孝(義太夫)、鶴沢 駒治(三味線)、飯室 康一(人形操演)	目標値	150
		市民学習センター		実績値	36

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	グラントワまちなか劇場 ～音楽やダンスが劇場を 飛び出して益田のまち へ!～	4月23日、9月4日他	[出演者] ~Ki-Ko!~合奏団、BLACK VELVETS、桂吉坊、BLACK BOTTOM BRASS BAND	目標値	150
		キャバレー赤玉、萩・ 石見空港他		実績値	186
2	グラントワ いわみステ ージ	①7月18日、②2月 26日	[出演者]①安来節保存会、ミサト・ サリ(ガムラン、バリ舞踊)、②今 福座(和太鼓)	目標値	400
		みさと館、矢上交流セ ンター		実績値	207
3	グラントワ芸術家の派遣 事業(アウトリーチ)	7月16日、11月19 日、1月30日他	[出演者]安来節保存会、石見音楽文 化振興会、石見の国くにびき18座 (演劇)、山本光洋(パントマイ ム)X[iksa](ヴァイオリン・ハー プ)	目標値	350
		弥栄会館、JR三江線 川戸駅舎他		実績値	418
4	益田系操り人形公演	5月27日、10月14 日、10月29日、11月 15日、12月9日、2 月5日、2月25日	[出演] 益田系操り人形保持者会	目標値	350(市 外公演 150名×1 回/出前 公演合計 200名)
		隠岐島文化会館、島根 県立美術館、戸田小学 校、益田翔陽高校 他		実績値	746(市 外公演 348名/ 市内出前 公演398 名)
5	いつでもどこでも音楽祭 ※	4月24日、5月5日他	[出演]石見音楽文化振興会、GARDEN WINDS(オーボエ、ピアノ)、米山麻 美(オルガン)、グラントワ合唱団 他	目標値	480
		美術館ロビー他		実績値	366

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当劇場が所在する島根県西部にあたる石見地域は、少子高齢化が進む全国有数の地域として知られ、深刻な人口減少により地域の衰退が急激に進行している。県の公立文化施設協議会加盟館 31 施設のうち、石見地域には 8 施設あるが、多くの施設において予算的・人間的に機能低下し、専門人材も地域全体で不足する状況にある。このような地域課題を抱える地域において県西部唯一の県立劇場として、計画に沿った事業展開を通じて文化による地域活性化の一翼を担うことができた。

ミッション1／鑑賞機会の提供と鑑賞者・実演者・愛好家の育成

令和 4 年度はホール耐震改修工事期間中であったため、主に館外事業を展開した。事業の組み立てとしては「鑑賞者・実演者・愛好家の育成」を目標に「鑑賞機会の提供」に取り組み、市町村合併により機会が限られる地域に対しても事業展開し、公平性の担保へと繋げている。また、新型コロナウイルス感染症の影響で中止や出演の取りやめもあり、運営及び集客においても引き続き影響を受ける部分はあったが概ね実施ができ、地域住民へ芸術文化に触れる機会提供の役割を果たしたといえる。

●公演型事業（アウトリーチ公演含む）：42 回

●講座型事業（ワークショップ含む）：30 回

ミッション2／交流人口の促進

地域と文化の「触媒」、新たな文化を育む「舞台」として地域間、世代間における交流を図りながら事業展開を行った。

特に比較的高齢者の来場が多数を占めていた公演事業において、15～65 歳の来場目標を 45～50%に設定し、実績として 62%を果たしている。また、地域間交流の視点では、島根県西部石見地域以外からの参加・来場目標を 20%とし、実績として 33%を果たしている。また、**公演事業①**では県の空港利用部署及び地元ツアー会社と提携し、公演実施に併せて周辺の観光地域を含む観光ツアーを展開。関東圏より航空便を利用しての参加が 12 名あるなど地域間交流の促進に繋がっている。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

●文化的意義

接触機会の限られている中山間地域や劇場に来場しづらい層に対しても公平に機会の提供を行い、地方にいながらも芸術文化に触れ親しむ場を創出することができた。

普及啓発事業②では、少子高齢化が進む地域にてプロアーティストや県内で活動する芸術団体の公演を開催。開催地の協力団体等と連携した広報、運営を行うことで来場者、関係者など広く地域住民の芸術文化に対する理解向上へと繋げることができた。

公演事業②では、地域伝統芸能である石見神楽の部活動・同好会がある高校 6 校によるオンラインツールを活用した複数回の事前交流を実施。地元の大学や学校魅力化コーディネーター等と協力しながら若年層の後継者育成に取り組むことで貴重な伝統芸能の活性化に貢献している。

●社会的意義

人材養成事業②では、単発の公演・体験機会の創出だけでなく、芸術文化による中長期的な地域活性化を目指した取り組みを展開。連携団体との対話を重ね、地元高校生、行政職員、民間企業など普段接する機会の少ない人同士が表現活動を通じて地域社会における芸術文化の可能性について検証した。また、館外での公演事業においては、事業企画・舞台技術両面から実施会場等と連携することで、県立施設のもつノウハウの共有を行うなど地域の文化活動に幅広く貢献している。

●経済的意義

劇場単体予算では実施の難しいプロアーティストや講師の招聘、住民の芸術文化活動支援における継続性を担保している。実施市町外・県外からの参加・来場があるなど地域経済への波及へと繋がっている。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【1. 公演事業】※いずれも事業①・②の合計

目標1：来館者の年齢構成をバランスのとれたものとする（来場者アンケートより集計）

指標	目標	実績
①0歳～15歳	11～13%	5%
②15歳以上～65歳	45～50%	62%
③65歳以上	33～40%	24%

指標②は目標達成。①③については不達成であったが、高齢過疎地域において生産年齢人口の来場者拡大を狙いとしていたため、②が目標を大きく上回ったことは集客の狙いを概ね達成できたといえる。

目標2：来場満足度を高める

[目標：「大変満足」「満足」の割合を85%以上 ⇒ 実績：87.5%]

事業①は創造事業としてコンテンポラリーアートや独自性の高い公演、事業②は地元の若年層による伝統芸能公演として開催。一般的な鑑賞公演ではなく芸術文化の社会的意義や可能性を実践した公演にて満足度の目標を達成したことは、今後の取り組みに繋がる結果になったといえる。（アンケート回収率80%）

目標3：活動を持続させ、地域の魅力を発信する

[目標：石見地域（県西部）以外からの参加・来場者を20%以上 ⇒ 実績33%]

県東部だけでなく、関東・中国・四国地方からの来場もあり、石見地域の誇る伝統芸能の魅力と、後継者世代の躍動を広く発信することができた。

【2. 人材養成事業】

目標1：参加者の年齢構成を若年層に比重を置いたものにする（事業②・③）

[目標：6歳～20歳の参加者を250名以上 ⇒ 実績：452名]

人口減少や部活動の地域移行化を鑑み、若年層の表現の場として一翼を担った。舞台技術研修会への高校生参加があるなど、知識習得においても波及でき、ミッション1の愛好家の育成へ繋がる結果となった。

目標2：広く活動支援・養成を行う / [目標：新規参加者20%以上 ⇒ 実績：64%]

座学、体験などニーズと課題に応じた事業展開を行うことで目標を上回ることができた。地域での活動者と新規参加者との交流は社会的意義も大きく、地域における芸術文化の可能性を高めることができた。

目標3：活動の持続性維持 / [目標：次回への参加希望割合50%以上 ⇒ 実績：75%]

活動が停滞したコロナ禍を経て、継続した参加希望が大きく目標を上回ったことは、地域住民の芸術文化活動に対する機運の醸成と意欲の高まりを再認識でき、今後に繋がる結果となっている。

【3. 普及啓発事業】

目標1：広域な県西部石見地域にて偏りなく事業を実施する（事業②・③・④）

[目標：石見地域4市5町全てのエリアで鑑賞・体験事業のいずれかを実施 ⇒ 実績：3市4町]

目標は達成できなかったものの、中山間地を中心に計16会場で実施。県立劇場として広く石見地域全域での事業展開を行い、劇場の社会的役割を果たしている。

目標2：文化施設以外の地域施設での実施（事業③・④）

[目標：過去2年以上開催していない福祉・医療施設あるいはコミュニティセンター等で3箇所以上の実施 ⇒ 実績：8箇所（アウトリーチ6箇所／益田糸操り人形公演2箇所）]

主に中山間地域の学校や地域施設にて開催。住民と芸術文化との接続に貢献することができた。

目標3：関係機関と連携し、事業成果と波及効果を高める（事業全体）

[目標：直接的に協力を得る関係機関数20団体（単なる名義後援等は除く） ⇒ 実績28団体]

企画制作段階から連携し、地域ニーズに即した事業展開による効果的な実施と、今後の地域文化振興において重要な連携深化に結びつけることができた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

《公演事業》事業期間

事業名	要望書	実績	変更点
1. MUSEUM × THEATER ミューシア	①5/28 ②11/3 ③11～12月	①5/28 ②9/23 ③11/26	②③出演者の都合により日程変更・決定
2. しまね伝統芸能祭 2022～高校生神楽フェスティバル～	8月	8/7	出演校との調整により日程決定

《人材養成事業》事業期間

事業名	要望書	実績	変更点
1. イワミ・アート・ラボ ラトリー	①6月・10月・2月 ②通年（全4回） ③通年（4～5回）	①実施無 ②10/22、11/12、12/17、1/21 ③6/27、7/31、9/17	①：②③に集約 ②講師との日程調整により日程決定 ③実施内容を鑑みて3回での実施
2. いわみキッズ塾	①10～1月（全5回） ②10～11月（全10回） ③10月（全1回）	①2/4・5 ②9/24、10/1・2・6・8・9・16・22（全8回） ③10/1・2・8・9（全4回）	①感染症の影響で中止 ②感染症の影響で2回減 ③内容を充実させるため3回増
3. いわみ舞台塾	5～3月（全12回）	5～3月（全12回）	変更なし
4. グラントワ・フランチヤイズ芸術団体育成	通年（全61回）	通年（全97回）	追加講座等により36回増
5. 鑑賞者育成講座 グラントワアートサロン	①7月 ②11月 ③2月	①2/23 ②3/20	実施内容を検討し、2回開催で決定
6. 益田系操り人形後継者総合養成事業	5～3月（全7回）	全6回	講師スケジュール調整により1回減

事業名	要望書	実績	変更点
1. グラントワまちなか劇場	7～10月（全4回）	①4/23、②9/4、③1/29、④3/19	
2. グラントワいわみステージ	11月、12月、1月（3回程度）	①7/18、②2/26	開催内容を検討し、2回開催で決定
3. 芸術家派遣事業（アウトリーチ）	5～3月（10回程度）	全6回	実施内容を検討し、6回で決定
4. 益田系操り人形公演	①10月（市外公演） ②通年（6回程度）	①10/29、2/5 ②通年（全5回）	
5. いつでもどこでも音楽祭	通年（6回程度）	通年（全6回）	

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】収益率／当初見込みより入場者数増のため収益率増
事業① 要望時 6.6% ⇒報告時 14% ※事業②は入場無料で実施のため収益率なし

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【地域・社会課題の解決に向けた劇場の役割と機能】

当劇場は、島根県西部唯一の県立劇場として、地域の活力や文化的な熱気を作り出し、交流人口を拡大させ、新たな地域文化を生み、国内外に地域の魅力を発信する役割を持っている。また児童生徒、高齢者には、地域にいながらにして様々な体験機会を設け、生きる力を育み、人材を育成し、地域の活力増進に貢献する役割もある。さらに当地域（石見地域）特有の問題として、他の文化施設の多くが小規模なため、当劇場に対する他館からの期待は大きく、事業連携、アウトリーチの実施、技術支援、広報活動支援など多面的に協力、支援が求められている。そのような中、特に役割と機能を発揮し、創造的・独創的と考える事業例は以下のとおりである。

●公演事業1 MUSEUM×THEATER ミューシア

館の資源・特徴として全国でも数少ない劇場と美術館を併設する複合施設という点がある。その特性を生かし、美術館と劇場とのコラボレーション企画としてコンテンポラリーアートや実験的かつ独自性の高い取り組みとして本事業を展開している。

本年度は次の3公演を実施した。①竹久夢二作詞の歌として有名な「宵待草」などの楽曲をソプラノとピアノで演奏し、夢二の世界を絵画とともに楽しむ企画。②20世紀初頭のデザインを主題にした企画展にあわせ、当時暮らしの空間で響いていたであろう「音」に関心を向け、当時の調律と現代の調律（平均律）との違いを聴き比べる企画。③当館の収集の柱である津和野町出身の文豪・森鷗外没後100年に際し、鷗外ゆかりの絵画に囲まれた展示室を会場に、人気声優・佐々木望氏の朗読と専門家による解説を織り交ぜながら森鷗外作品の魅力に迫る企画。③では人気声優の登壇にあたり、オリジナルの羽田発着ツアーを実施し県外からの来場者獲得につなげた。

●人材養成事業1 イワミ・アート・ラボラトリー ～アートとつくる ひと まち みらい～

本劇場の位置する益田市と隣接する市町には公立文化ホールのない地域もあり、年齢に関わらず文化芸術に触れる機会が限定されている現状がある。本事業では、県の文化振興財団として培ったノウハウを活用しながら、地域との対話と連携を通じて文化による地域活性化に活かす取り組みとして実施した。

実施内容としては、実際に表現ワークショップを行う「体験の場」、「共催する連携先との継続した対話型協議ミーティング」に取り組み、芸術文化を通して中長期的に地域を盛り上げる仕組みづくりを地元住民と検証しながら展開するラボラトリー形式で実施した。体験ワークショップでは、共催団体と共に年間テーマを「あなたとわたし」に定め、通年での表現ワークショップ（「vol.1 今福座和太鼓ワークショップ～感触／自分の声～」「vol.2 坪内健（松ヶ丘病院 院長）ワークショップ ～意識／あなたの声」「vol.3 志人ワークショップ ～意識・詩～」）を実施。普段接する機会の少ない多世代、異業種同士が本事業を通じて交流することで、表現の豊かさに触れながら地域への愛着と活性化について考える機会を提供することができた。

●普及啓発事業1 グラントワまちなか劇場 ～音楽やダンスが劇場を飛び出して益田のまちへ！～

県西部唯一の県立劇場として、大小ホール耐震改修工事期間中も文化の灯を絶やさず、継続して県民の鑑賞機会を提供するべく、益田市中心部での館外事業として実施した。

地元商店会、日本遺産構成文化財、益田市教育委員会、空港利用促進対策室などの地元関係者と企画・広報段階から打ち合わせを重ねてニーズを汲み取りながら進め、休館明けに地域の文化拠点としての機能を最大限発揮できるよう、劇場に対する理解者・支援者との関係づくりにつながる企画立案に取り組んだ。

日本遺産や空港の貨物ビルといった普段活用されていない会場で実演芸術を開催することにより、会場が持つ本来の魅力や、利活用の可能性を関係者や来場者に対して伝え、今後の発展につながる機会とすることができた。観光面からの日本遺産の認知度向上や他空港から空港の利活用の参考にされるなど、ホール公演では得られない波及効果がみられた。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

大小ホール耐震改修工事期間中である令和 3 年 11 月以降、主に館外事業を石見地域全域で展開している。平成の市町村合併以前の旧市町全 23 エリア（現在は 4 市 5 町の計 9 エリア）にて事業を実施し、鑑賞・体験機会の行き届きづらい地域へも芸術文化を届けることで、地域文化振興に取り組んでいる。

●公演事業 2 しまね伝統芸能祭 2022 ～高校生神楽フェスティバル～

地域の伝統芸能「神楽」を部活動・同好会として活動している県内の高等学校 6 校の演舞発表の場を提供することで地域の実演芸術の振興につながった。単なる演舞の発表だけでなく、本番までに月 1 回のオンライン会議の場を設け、テーマ「神楽に興味のない同級生に神楽を好きになってもらうには」について高校生同士で話し合う場を提供し、公演本番では各校がそれぞれに考えを発表した。この取組を通じて、若い世代が石見神楽の魅力や課題を考える機会を提供できたほか、学校や市町村を超えて神楽に関わる高校生の横のつながりが生まれるきっかけを提供することができ、県全体の伝統芸能の発展に寄与することができた。また、高校放送部による広報用の映像制作や、教育魅力化コーディネーターがオンライン会議の進行役を務めるなど、神楽部だけに留まらない広がりを事業に持たせることができた。

●普及啓発事業 2 グラントワ いわみステージ／事業 3 グラントワ芸術家の派遣事業（アウトリーチ）

主に中山間地域への鑑賞機会創出を目的に実施した事業 2-①では、アンケートで「老若男女のイベントで楽しかった。町外の伝統文化とコラボレーションすることは交流にもつながり大変良いと思う」という地元来場者の声が聞かれた。事業 2-②では、コロナ禍により地元太鼓チームの活動が停滞気味だったが、チーム全員で鑑賞し、出演者とも交流するなど和太鼓の魅力を再確認しており、今後の活動再開への弾みとなった。

①②ともに、山間部の人口の少ない地域の公立施設でプロの出演者を迎え、当館の舞台技術職員が舞台・音響・照明を担当。アンケートでは「本場の安来節の各種堪能できた」「音と照明のイメージも合っていた」「今後も音楽、落語など近隣からも来てもらえる有料の催しをして賑わいを作り出したい」など、生の舞台芸術への関心や期待の高まりがみられ、各地域での文化芸術の発展に貢献した。

グラントワ芸術家の派遣事業（アウトリーチ）では、廃校となった木造の貴重な小学校校舎や、廃線となった旧三江線の駅舎での開催など、人口減少が著しい中山間地域の価値ある空間に賑わいを創出し、文化芸術文化の持つコミュニティを活性化する力を発揮した。若年層に向けても、中山間地域の保育園や小学校で音楽や演劇のアウトリーチを実施。地域の未来を担う子どもたちに生の実演芸術の豊かさに触れる機会を提供することで、各地域における文化振興の一助となっている。

●普及啓発事業 4 益田糸操り人形公演

島根県指定無形民俗文化財である「益田糸操り人形」の保存・継承・普及啓発を目的として、市内の小学校・高等学校、計 5 校を対象に公演を開催。ホール改修工事により例年のグラントワでの定期公演が開催できないなか、実施会場の募集、調整を益田市教育委員会と協働して行い、市内の幅広い地域の児童生徒に生の鑑賞・体験機会を提供することができた。

伝統的な古典演目に加え、ストーリーを理解しやすい児童向けの創作演目も上演するなど、伝統芸能に対する敷居を下げ、楽しみながら鑑賞できるよう工夫したほか、公演後には質疑応答や人形操演・三味線演奏の解説・体験も行った。このように本芸能の継承者との対話を通して、その成り立ちや演者の感覚を体感的に学べる内容としたことで、「人形に命が吹き込まれたみたいで感動した」「義太夫や三味線を聞いたことがなく、すごくいい経験になった」などの声が聞かれ、地元の伝統文化の魅力発信に繋がった。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

島根県西部唯一の県立劇場として、事業を通じて制作・運営能力を高めると同時に、組織の持続と発展の為、次のような人事・経営戦略を行っている。

(1) 組織・人材

○組織体制：島根県立いわみ芸術劇場は、「総務広報課」「舞台技術振興課」「文化事業課」の3課を設置し、正規職員、準職員（無期契約）、契約職員（有期契約）の3つの雇用形態で34名が在籍している。文化事業や舞台技術、広報等のノウハウや県内ネットワークの共有、人材育成などを目的に、当財団が指定管理者として管理運営する島根県民会館（松江市）などを中心に、定期的に施設間の人事異動を行っている。

○ボランティア組織：グラントワボランティア会（地域住民によるボランティア組織）。公演運営、広報、施設美化など11の部門で構成され、施設運営全般を支えている。令和4年度は61名（延べ90名）が加盟し、館外施設の催し視察や他地域ボランティアとの交流など定期的な研修も実施。

○グラントワホール友の会：年会費制会員制度／会員数1,044名（2023年4月時点／美術館との共通会員含む）

○オンラインチケットシステム会員：無料web会員制度／会員数3,915名（2023年4月時点／島根県民会館との共通）

○研修・視察等：アートマネジメント、舞台技術、社会包摂など、幅広い分野の研修や外部視察に取り組んだ。（訓練を除く全職員が参加した研修2回、その他研修・視察参加延べ名）

研修・講座抜粋

ステージラボ大分セッション 入門コース／ワークショップリーダー養成講座／ステージテクニカルアカデミー2022 島根県舞台芸術セミナー／貸館対応現場実践研修／地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会（中四国地域）／愛知県芸術劇場人材育成ラボ 技能習熟プログラム「劇場職員セミナー2023」／グラントワバリアフリー研修会 映画「ウェディング・ハイ」ユニバーサル上映／インターネットと人権 グラントワ職員研修

(2) 財務

組織財政状況：施設利用料及び入場料等は、コロナ禍以前に比べ落ち込んでいるものの、補助金を獲得することで、借入金もなく流動比率も安定している

（令和4年度正味財産合計：1,031,262,924円）。

【外部資金の活用】（令和4年度 組織全体の主要な補助金、委託事業の抜粋） ※本助成事業を除く

《文化庁・日本芸術文化振興基金》

- ・障害者による文化芸術活動推進事業
- ・文化芸術による子供育成総合事業（芸術家の派遣事業）
- ・アートキャラバン（地域連携型）／「JAPAN LIVE YELL project」

(3) ネットワーク

当劇場は、県の中核をなす公共ホールかつ劇場と美術館が併設する県立施設という当センターの特性を生かし、設置者である島根県と劇場が位置する益田市の各部署との協力・協働体制を基盤に、近隣の自治体や各施設、団体とネットワークを持っている。

○劇場音楽堂等：「劇場、音楽堂等連絡協議会」や県内31施設で構成する「島根県公立文化施設協議会」に加盟

○OPDCAに係る協議会等：「島根県芸術文化センター協議会」（文化芸術・教育・報道機関等の有識者で形成する協議会）／「芸術文化とふれあう協議会」（益田市、吉賀町、津和野町、各市町教委、県、当財団で形成する協議会）